

# IR Report 2009

## 第5期 グループ報告書

2008年4月1日～2009年3月31日

株式会社マルハニチロホールディングス

証券コード：1334



MARUHA NICHIRO

世界においしいしあわせを



MARUHA NICHIRO

【グループ理念】

私たちマルハニチログループは誠実を旨とし、  
本物・安心・健康な「食」の提供を通じて、  
人々の豊かな生活文化の創造に貢献します。

水産事業 水産セグメント

目指せ「世界に冠たる  
水産物のプロデューサー」

- 漁業・養殖ユニット ●北米ユニット ●水産商事ユニット
- 荷受ユニット ●戦略販売ユニット

マルハニチロ水産、大洋エーアンドエフ、大都魚類、  
Westward Seafoods, Inc., Peter Pan Seafoods, Inc. 等

加工食品事業 食品セグメント

開発・生産・販売の一貫体制で  
付加価値の高い商品づくり

- 冷凍食品ユニット ●加工食品ユニット ●化成品ユニット
- アジア・オセアニアユニット

マルハニチロ食品、アクリフーズ、ニチロサンフーズ、アイシア、  
Kingfisher Holdings Limited 等

畜産事業 食品セグメント

開発・生産・加工・販売の  
グローバルネットワーク

- 畜産ユニット

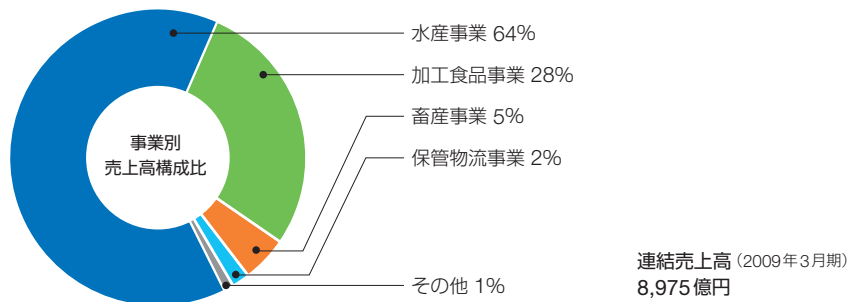
マルハニチロ畜産、ニチロ畜産、マルハミートアンドデリカ 等

保管物流事業 保管物流セグメント

58万トンの庫腹量を誇る  
総合物流サービス

- 保管物流ユニット

マルハニチロ物流 等



# マルハニチログループは、 新中期経営計画「ダブルウェーブ21」の実行により、 “統合の完成”を目指します。

TOP INTERVIEW

Double Wave 21



●代表取締役社長

五十嵐 勇二

株主の皆様におかれましては、ご清栄のこととお慶び  
申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚  
く御礼申し上げます。

第5期を振り返って

2008年度、激動の事業環境のなか収益力を堅持

2008年度、私たちを取り巻く環境は個人所得の伸  
び悩み、物価上昇、消費の冷え込み、国内マーケットの  
縮小と、予想以上の速さで変化しました。

そうしたなか、当期における当社グループの売上高は  
8,975億円、営業利益は155億円、経常利益は81億  
円となり、売上、利益ともに当初計画未達に終わしまし  
たが、前年実績（売上高8,448億円、営業利益130

億円、経常利益73億円）を上回る結果となりました。  
経常利益については、急激な円高により為替差損26億  
円（営業外）を計上したことから前期比10.5%増に留  
まりましたが、100年に一度ともいわれる世界規模の  
経済金融危機のさなか、マルハニチロも例外なく大変厳  
しい状況にあるなかで、総じて比較的健闘できたと思っ  
ております。

最終損益につきましては、株価の下落にともなう投資  
有価証券評価損74億円など特別損失として131億円  
を計上した結果、63億円の赤字となりました。しかし  
これは、将来の財務リスクを軽減すべく保有上場株式の  
株価回復可能性をより厳しく見直し、減損すべきを減損  
した結果であり、2009年度からの安定経営に資する  
ものと思っております。

### 新中期経営計画「ダブルウェーブ21」について

#### 統合1年目は順調に推移、 今後さらに「統合の完成」を目指して

2008年4月にスタートした新中期経営計画「ダブルウェーブ21」（※詳細5～8ページ）の最大の課題は「統合効果の追求」と「統合の完成」です。

厳しい事業環境を余儀なくされてきたなかで、一昨年のマルハとニチロの統合は非常にタイムリーな施策であったと思っております。統合1年目、グループ企業および事業の再編、生産拠点の再編、システム統合などさまざまな施策に取り組んでまいりました。その多くは完成途上にあるものの概ね計画通りに進み、「ダブルウェーブ21」が目指す「統合の完成」の実現に向けて順調に推移しております。

統合によって各事業の厚みが増したことにより、今後はコスト面の効果のみならず、事業規模を背景とした調達力、開発力、競争力がさらに期待できるようになってまいりました。それこそがマルハニチロの強みとなり、統合1年を経てその効果が確実に発揮されつつあると感じております。「ダブルウェーブ21」では統合効果をそのまま順調に進展させ、さらに加速させて「統合の完成」を実現できるよう強い意思をもって取り組んでまいります。

#### 「ダブルウェーブ21」の重点方針とは

先に申し上げた「統合効果の追求」と「統合の完成」に加え、成長戦略の視点から「優良な食材の安定的な供

給」、「世界市場への挑戦」を掲げております。

マルハニチロで扱う商材は水産由来のものが数多くありますが、限られた水産資源を有効に活用し、圧倒的な事業の厚みを背景にして「おいしく、安全・安心で、健康に良く、手ごろな値段で、信頼というスパイスを付加した」食材を安定的に提供することをグループの使命として取り組んでまいります。

世界市場への挑戦については、世界経済の回復の兆しがいまだ不透明ではありますが、日本市場が飽和状態である今、成長分野は海外にあるものとして現状と先行きをしっかりと見据え、スピード感をもって柔軟に取り組んでまいります。

### 今後の取り組みと抱負

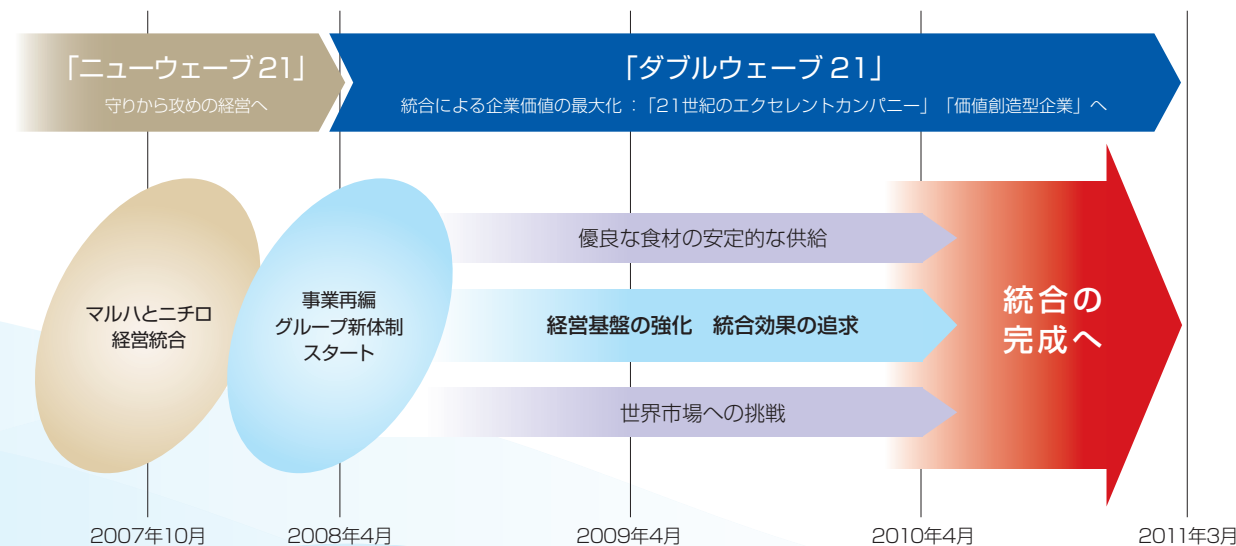
#### 第6期は収益力をさらに拡大

2009年度は売上9,000億円、営業利益200億円、経常利益150億円、純利益40億円を計画しております。今後しばらくは厳しい経済環境が続くと考えられますが、2008年度比プラス45億円の営業利益を見込んでおり、今後はさらに「統合の完成」を目指し、「ダブルウェーブ21」に掲げた施策を強力に推し進め、統合効果を本格的に発揮すべく全力で取り組んでまいります。

#### 「安全・安心」を確保するために

「安全・安心」については万全を期してまいる所存です。グループ全体の品質保証管理体制をさらに充実させるべ

### ●新中期経営計画「ダブルウェーブ21」が目指す姿



く、2008年4月に各事業会社に品質管理部門を設置、要員の増加を図り、ホールディングスを中心により強固な体制を構築いたしました。

設備等のハード面への投資に加え、原材料、商品のチェック体制等ソフト面の強化を図り、グループの末端にいたるまでコンプライアンス意識の浸透を繰り返し、繰り返し図ることにより、商品の安全に細心の注意を払ってまいります。さらに、研究開発体制を充実させ、よりいっそう消費者の皆様へ「おいしいしあわせ」を感じていただける商品の開発・提供を進めてまいります。

#### 「統合の完成」に向けて最大限の力を発揮

「ダブルウェーブ21」の目標は容易に達成できるものではありませんが、グループ一丸となって課題に取り

組み、目標をクリアしたいと思っております。限りある資源を大切かつ有効に活用するビジネスモデルを確立するとともに、成長戦略を国内外で実行し、慎重かつ大胆に、スピードをもって「統合の完成」を実現してまいります。

マルハニチロの目指すところは、「水産資源を主とする食品の調達-加工-販売を総合的に行う、世界最大最強の食品関連企業グループ」です。今後も強い使命感と存在感をもって社会に貢献し、業績を発展させてまいります。

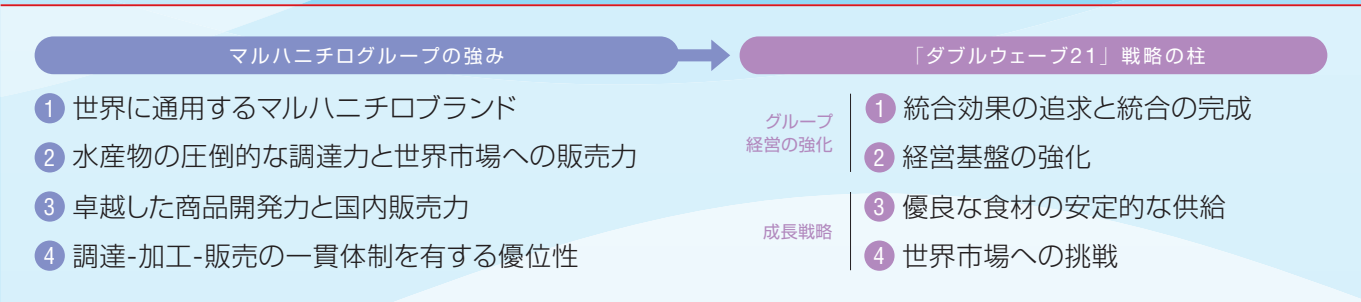
統合の成果も出てきているなか、株主還元の充実も図ってまいりたいと思っております。どうぞ、株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

# “統合の完成”を目指して、 攻めの戦略へ

マルハニチログループは、新中期経営計画「ダブルウェーブ21」(2008年度～2010年度)を策定いたしました。前中期経営計画「ニューウェーブ21」(2005年度～2007年度)では、守りの経営から攻めの経営への転換を目指し、戦略セグメント・事業ユニット単位のグループ経営の強化とコア事業への「選択と集中」に基づく成長戦略の実現に注力してまいりました。

新中期経営計画「ダブルウェーブ21」においては、水産・食品事業をコアとした世界の食へ貢献する21世紀のエクセレントカンパニーとして、常に新しい食の世界を提案する価値創造型企業を目指すとともに、全体最適化による経営統合効果を追求し、グループ経営の強化を進めてまいります。

## » DOUBLE WAVE 21 新中期経営計画「ダブルウェーブ21」



2008～2010年度

- » グループ経営の強化による企業価値の最大化
- » 価値創造型企業への変革

### 「ダブルウェーブ21」が目指すもの

マルハとニチロは2007年10月に経営統合いたしました。「ダブルウェーブ21」初年度にあたる2008年4月、両社の共有する事業を、水産、食品、畜産、そして保管物流に再編し、マルハニチロならではの商品・サービスの開発、顧客の開拓、新規事業への挑戦などに取り組み、一定の成果をあげてまいりました。

「ダブルウェーブ21」では今後はさらに「統合の完成」を目指し、グループ全体の経営基盤をいっそう整備・強化し、将来に続く成長戦略の礎を構築してまいります。成長戦略の柱は「優良な食材の安定的な供給」と「世界市場への挑戦」です。水産資源へのアクセス権の確保をあらゆる方向から検討、実行することにより、安定的な供給体制の構築を目指します。中核事業である水産事業、食品事業ともに日本国内における開発・販売等の施策を強化するだけでなく海外戦略への取り組みを強力に推進し、世界市場への挑戦をさらに進めます。

### 「ダブルウェーブ21」の経営目標

	2008年度	2010年度
売上高	8,975 億円	10,000 億円
営業利益	155 億円	240 億円
ROA	3.0 %	4.6 %
自己資本比率	12.3 %	15.7 %
有利子負債残高	3,336 億円	2,999 億円

### 成長のための設備投資計画

水産セグメント	170 億円
食品セグメント	200 億円
その他・共通	230 億円
<b>合計</b>	<b>600 億円</b>

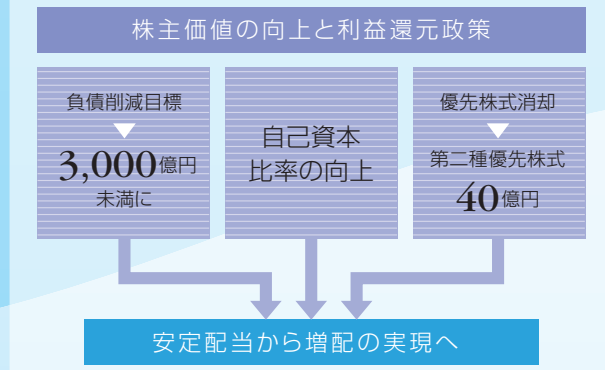
水産セグメント: 資源アクセス力を強化するため、新規漁船の建造、北米地区およびマレーシアえび養殖の生産設備増強など、水産物の安定供給を牽引するために必要な設備投資を実施いたします。

食品セグメント: 北海道・東北エリアの拠点統合・再整備を優先課題として、生産拠点の統合を行います。さらに、国内外を問わず、選択と集中にともなう生産効率アップのための設備増強を実施いたします。

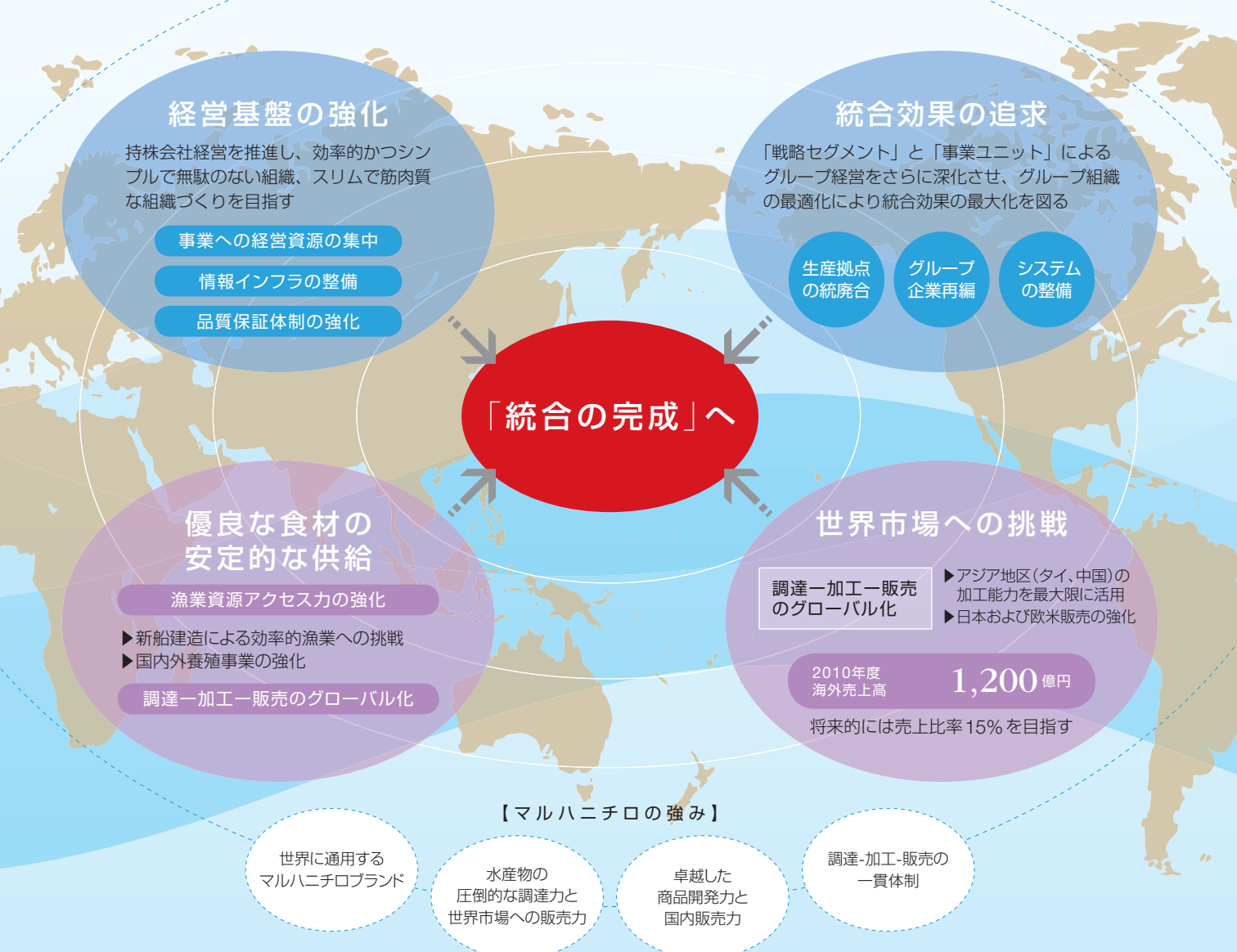
その他・共通: セグメントを問わず、事業の効率化に不可欠なインフラ整備、情報システムへの投資等を行ってまいります。また、調達・加工機能、販売機能強化のための新規M&Aを実施いたします。

### マルハニチログループの配当方針

財務戦略を強化し、強固な財務体質を構築します。株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要施策と位置づけ、安定配当を継続的に実施いたします。



「ダブルウェーブ21」戦略マップ 最大限に強みを生かし、「統合の完成」を目指す



事業セグメント別の具体的な施策

**水産セグメント** 目標営業利益 2008年度 88 億円 2010年度 110 億円

- ① 国内漁業の強化
- ② 国内外養殖事業の強化
- ③ 北米事業の基盤強化
- ④ 水産商事活動のさらなるグローバル化
- ⑤ 国内(市場内外)流通の強化

世界最大規模の水産物取扱量を誇る水産セグメントでは、原料調達、海外加工、国内販売、海外販売を一段と強化し、調達-加工-販売の一貫したグローバルチェーンをさらに強固にすべく、左の5つに取り組んでまいります。特に、新船建造による効率的漁業への挑戦、クロマグロやカンパチ、エビ等の養殖事業の強化・拡大等に取り組み、資源アクセス力の強化を図ります。品質管理体制をいっそう強化し、「成長への挑戦」をキーワードに「世界に冠たる水産物のプロデューサー」を目指してまいります。

**食品セグメント** 目標営業利益 2008年度 89 億円 2010年度 143 億円

- ① 国内生産拠点の強化
- ② 組織の再編と効率化
- ③ 重点商品(冷凍食品)の強化
- ④ 健康関連・チルド食品の強化
- ⑤ タイ加工拠点の欧米販売強化

食品セグメントでは「国内外生産拠点の効率化」「商品の選択と集中」「商品開発のスピードアップ」を図るべく、左の5つに取り組んでまいります。冷凍食品重点商品の売上比率を引き上げるとともに、業務冷凍食品のグループ内生産比率を60%に、さらに健康関連商品の年間売上高100億円を目指します。また、タイ加工拠点の海外販売売上高450億円を目指し、世界市場へも果敢に挑戦します。品質管理体制の強化には万全を期して取り組み、「高品質な、質の高いメーカー」を目指してまいります。

**保管・物流セグメント** 目標営業利益 2008年度 13 億円 2010年度 19 億円

- ① 運送会社との連携強化
- ② 輸入・通関業務の強化
- ③ 省エネ対策(電気使用量10%ダウン)
- ④ 貨物のダウンサイジング

保管・物流セグメントでは「輸配送事業の強化」「物流品質の向上」「環境に配慮した経営」を図るべく、左の4つに取り組んでまいります。これにより、冷蔵倉庫37拠点、庫容量58万トンを有する「太平洋コールドベルト」を最大限に活用した一貫物流体制を構築し、「総合物流サービスの提供」を目指してまいります。

**その他の事業** 目標営業利益 2008年度 6 億円 2010年度 8 億円

(消去または全社経費 △40億円)

2010年度 合計 240 億円

# TOPICS 2008-2009

## 資源アクセス力の強化について

### ■ 下関漁業を設立 操業開始

国が推し進める下関地域の漁業活性化策の一環として、大洋エーアンドエフが大手資本として初めて沖合底曳漁業に参入し、地元資本と共同で下関漁業を設立いたしました。省人化された次世代型漁船を駆使し、地域漁業の存続・発展のモデルケースとなるべく、ひいては国内漁業の活性化に繋げるべく事業を展開してまいります。



株式会社下関漁業 ● 概要

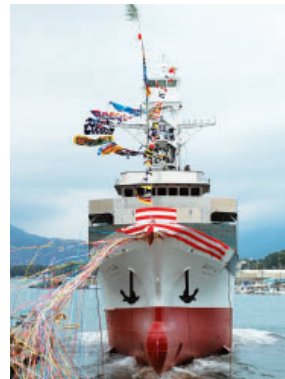
所在地：山口県下関市大和町

資本金：1 億円

設立年月：2008年6月

### ■ 大型沖合まき網船 進水

2009年度中の操業開始を目指し、2009年2月、大洋エーアンドエフが建造を進める単船操業可能な大型沖合まき網船が進水しました。燃料費や人件費、維持費などを削減し、操業効率化に繋がる省エネ、省人、省コストを図っている点が大きな特長です。三陸沖を主要な漁場としてカツオやサバなどを中心に漁獲する予定です。魅力ある漁業の再生を目指し、地域漁業への貢献とともに経済効率性のある新たな漁業に挑戦しています。



## グループの再編について

### ■ 北海道・青森地区 生産拠点を集約

食品事業における生産効率を高め、統合効果を最大限発揮するための最初の施策として、北海道と青森地区にあった19拠点のうち、魚介類の缶詰や冷凍食品などを製造していた3拠点を同エリアの他の工場に集約しました。さらに1拠点を売却し、トータル15拠点といたしました。これらの施策によりコスト削減等さらなる効率化を推し進め、シナジー効果を最大限に実現してまいります。



### ■ ニチロサンフーズを完全子会社化

グループ経営の全体最適化を図るため、2009年3月、マルハニチログループの冷凍食品ユニット、ニチロサンフーズはマルハニチロホールディングス株式を対価とした株式交換を行い、マルハニチロ食品の完全子会社となり、上場廃止となりました。今後は両社の強みとノウハウを融合し、機動的な事業展開によってグループ内の連携をさらに強化してまいります。



株式会社ニチロサンフーズ ● 概要

所在地：新潟県長岡市南陽

資本金：727百万円

主な事業内容：冷凍食品・チルド食品・畜産品の製造販売

### ■ 熊本魚と鹿児島魚市の合併

かねてから着手している九州地区荷受事業再編の一環として、2009年4月、マルハニチログループの荷受ユニット、熊本魚と鹿児島魚市が合併し、新たに「九州中央魚市株式会社」が発足しました。産地市場としての鹿児島魚市がもつ鮮魚集荷力と、消費地市場としての熊本魚がもつ販売力。これらの相乗効果を最大限に発揮させ、今後さらに事業強化を目指してまいります。



九州中央魚市の新ロゴマーク：九州、熊本、鹿児島のアルファベット頭文字「K」を2匹の魚がかたどり、輝く太陽と海の深さをグラデーションで表現しています。

九州中央魚市株式会社 ● 概要

所在地：熊本県熊本市田崎町（本部）

資本金：90百万円

■ マルハニチログループの新商品

# お客様ニーズから付加価値を創造する マルハニチログループの商品開発

## New Package お客様の声から生まれた使いやすい新パッケージ

### 毎日煮魚 ▶ 新型缶「New パッ缶」

今までの缶詰の、フタの切り口が危険、中身が出しにくいといったお客様の不満点を改善し、「開けやすい、出しやすい、洗いやすい、重ねられる」、独自の新型缶「New パッ缶」を開発しました。中身が取り出しやすくなり、開けた缶は安心して洗って重ねて片付けられます。新型缶の使い勝手により、さらなる惣菜缶詰市場の拡大を目指します。



### フィッシュソーセージ Ca

▶ 簡単にあけられる「マジックカット」

フィッシュソーセージの不満第一位の「あけにくさ」を解消するため、手で簡単にどこからでもあけられる「マジックカット」を実現。さらに、中身がつかないナイロンフィルムで利便性が大幅にアップしました。また、カルシウムを関与成分とする業界初の「特定保健用食品」です。超ロングセラー商品の歴史を変えるべく、市場席巻を目指します。

利便性を追求した商品、健康を意識した商品など、お客様のニーズから生まれた新しい商品が続々登場しています。今後もマルハニチロの総合力を結集し、お客様ニーズに呼応した魅力あふれる商品開発に努めてまいります。

## New Item 健康的価値の高い新商品が続々登場

### おかずバランス計画

管理栄養士が監修を行い、エネルギー、食塩相当量、栄養バランスに配慮した冷凍食品のおかずシリーズです。食べたいメニューを自由に選んでいただけるように、主菜と副菜を別パッケージにするなどの工夫が満載です。



### カルシウム育ち ちくわ

カルシウムを関与成分とする業界初の「特定保健用食品」です。一本あたりカルシウム 300mg を含み、一日一本を目安に継続して摂取することにより骨粗鬆症のリスク低減効果が期待できます。



### ゼリー de ゼロ

ゼロカロリーで脂肪燃焼補助成分「L-カルニチン」も入っている機能系ゼリー。2008年3月発売以来、高い支持をいただいております。ご好評におこたえして新アイテムを続々投入。「フルーツ風味」をコンセプトに今後もラインアップの充実を図ります。

# お客様の信頼を得るための マルハニチログループの取り組み

マルハニチログループではお客様のご期待におこたえするために、商品の安全性をより高める努力と情報公開をいっそう進めております。

## 冷凍食品、パッケージに製造番号を印字 国内工場には原材料QRコード管理システムを導入

マルハニチロ食品では2009年3月より、市販用冷凍食品のパッケージに個別の製造番号を印字する作業を進めています。製造時間、カウンター、製造月日、包装機番号を印字することで、製造時間やラインを特定する精度が格段に高まりました。また、2007年4月から順次導入を進めているのが原材料QRコード管理システムです。国内冷凍食品工場ではこのシステムを使用し、原材料の入荷から生産・出荷にいたるまでの履歴を二次元バーコードで管理しています。製品の改良や品質向上に寄与するだけでなく、万一のトラブル発生の際もいち早い対応が可能となります。2009年度中には主力市販用冷凍食品ラインへの導入が完了する予定です。



パッケージに印字された製造番号



マルハニチロ食品 商品詳細情報ページ

## ホームページ上における消費者の皆様への情報提供の取り組み

### ①「主な原材料の産地」等公開

消費者の皆様へ原料情報をわかりやすく、正確にお伝えするための取り組み・検討が進んでいます。特に冷凍食品等に使用されている主原料の原産地に関するお問い合わせを多数いただいております。それらご要望に

おこたえべく、ホームページ上にて主要原料の原産地、生産工場、アレルギー等の情報公開を主要商品で開始しております。今後も安全・安心への取り組みをご理解いただけるよういっそうの情報提供に努めてまいります。

### ②「トレースシステム」公開

マルハニチロ食品では、ちくわ、缶詰の主力商品で主要原料の生産履歴をホームページ上で公開しています。お買い求めいただいた商品のJANコード、賞味期限等を入力していただくと、原料となる魚がいつ、どこで獲れたものか、等の情報検索が可能です。今後も順次、「トレースシステム」に対応したアイテムを追加してまいります。



トレースシステム 検索結果サンプル

## キャリアコントロールシステム

中国における冷凍野菜の生産では特に、安全・安心のため、専用農場での栽培、農薬の一元管理、生産工場と日本の検査施設による残留農薬検査を実施しています。また、種まきから製品までの生産履歴をデータベース化することにより、“農場から食卓まで”のトレーサビリティを確保し、徹底した品質管理を行っています。



残留農薬検査の実施

## マルハニチロ食品、アクリフーズが「フードアクションニッポン」推進パートナーに

消費者の皆様への国産志向に対応するため、国産原料にこだわった商品を拡充しています。こうした取り組みは、2008年度からスタートした農林水産省の「フードアクションニッポン」（食料自給率向上に向けた国民運動）の推進パートナー登録に繋がりました。



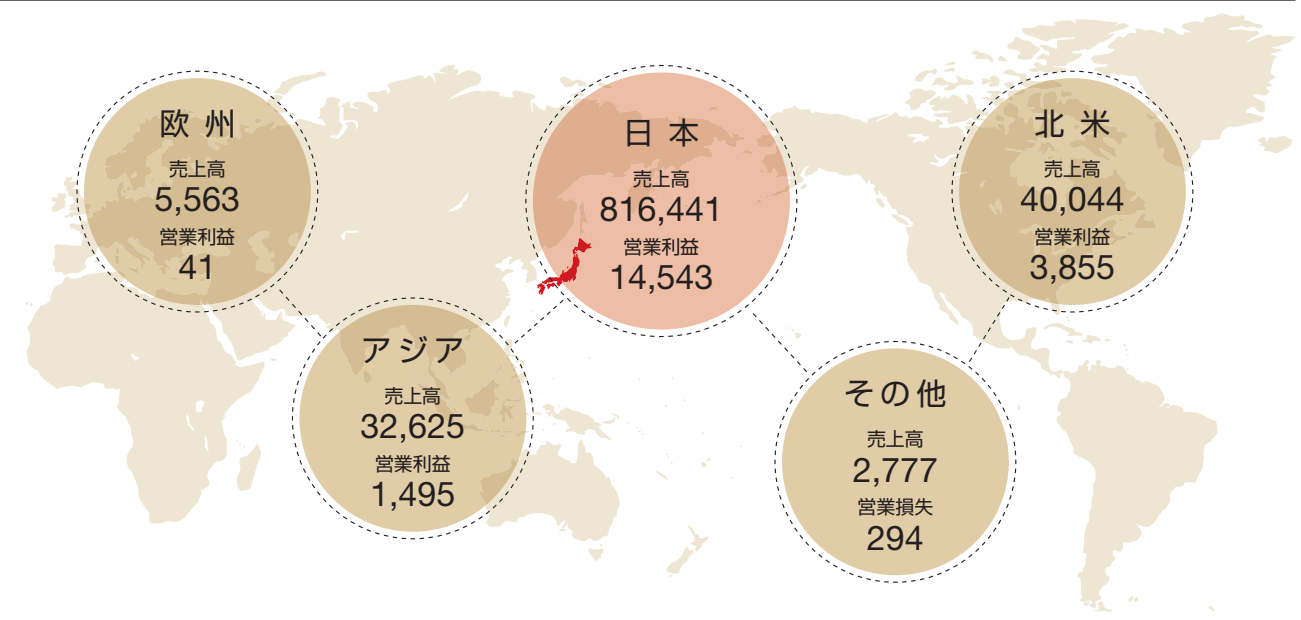


## 業績ハイライト

### ●主要事業の種類別セグメント情報

水産		食品		保管物流	
売上高	577,705百万円	売上高	291,263百万円	売上高	15,366百万円
前年比	1.1%減 ↘	前年比	23.7%増 ↗	前年比	9.1%増 ↗
営業利益	8,813百万円	営業利益	8,904百万円	営業利益	1,334百万円
前年比	2.7%増 ↗	前年比	42.7%増 ↗	前年比	21.8%増 ↗

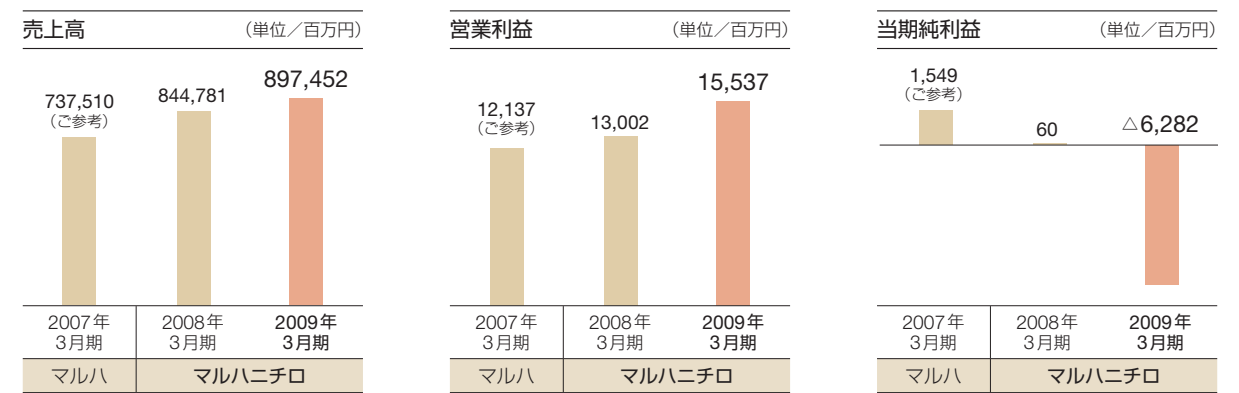
### ●所在地別セグメント情報 (単位/百万円)



### ●主な経営指標

	(単位/百万円)		
	マルハグループ本社 (ご参考)	マルハニチロホールディングス	
	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
売上高	737,510	844,781	897,452
営業利益	12,137	13,002	15,537
経常利益	11,093	7,316	8,081
当期純利益	1,549	60	△6,282
総資産	384,275	550,709	521,459
純資産	59,673	93,146	77,910
1株当たり当期純利益 (円)	4.28	△0.40	△12.50
1株当たり純資産 (円)	109.82	129.68	103.69
自己資本比率 (%)	12.0	13.9	12.3

※2007年10月の経営統合により、マルハニチロホールディングスの2008年3月期連結業績には旧ニチログループ2008年3月期下半期の連結業績が含まれております。



## 企業・IRインフォメーション

### ●会社概要 (2009年3月31日現在)

会社名	株式会社マルハニチロホールディングス
所在地	東京都千代田区大手町1-1-2
設立	2004年4月 (2007年10月に、株式会社マルハニチロホールディングスから株式会社マルハニチロホールディングスに商号変更)
資本金	310億円
グループ会社	200社(国内99社、海外101社) <ul style="list-style-type: none"> <li>連結子会社 101社</li> <li>非連結子会社 31社(うち持分法適用会社3社)</li> <li>関連会社 68社(うち持分法適用会社19社)</li> </ul> マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロ畜産、マルハニチロ物流、マルハニチロマネジメント、大都魚類、神港魚類、大洋A&F、ニチロサンフーズ、アクリフーズ、アイシア、Westward Seafoods、Peter Pan Seafoods、Kingfisher Holdings その他

### ●役員体制 (2009年6月25日現在)

役職	氏名
代表取締役社長	五十嵐 勇二
代表取締役副社長	久代 敏男
専務取締役	神田 和明
常務取締役	青木 信之
常務取締役	安西 眞郎
取締役・執行役員	伊藤 滋
取締役・執行役員	坂井 道郎
取締役・執行役員	渡辺 淳
取締役・執行役員	根本 渡
取締役	今村 宏
取締役	村田 彰徳
社外取締役	長野 庵士
社外取締役	中部 由郎
常任監査役	坂口 正泰
常任監査役	永井 俊行
監査役(非常勤)	八幡 秀昭
監査役(非常勤)	大坪 憲二

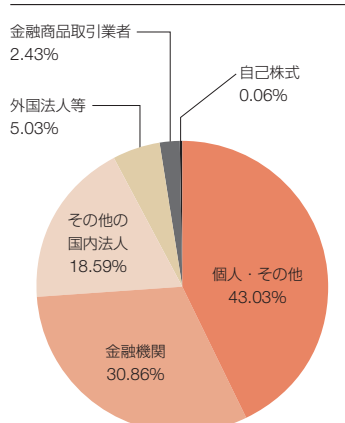
### ●株式の状況 (2009年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,200,000,000株	普通株式	1,170,000,000株
		第一種優先株式	26,000,000株
		第二種優先株式	4,000,000株
発行済株式の総数	519,604,884株	普通株式	508,574,884株
		第一種優先株式	7,030,000株
		第二種優先株式	4,000,000株
株主数		普通株式	67,952名
		第一種優先株式	17名
		第二種優先株式	1名

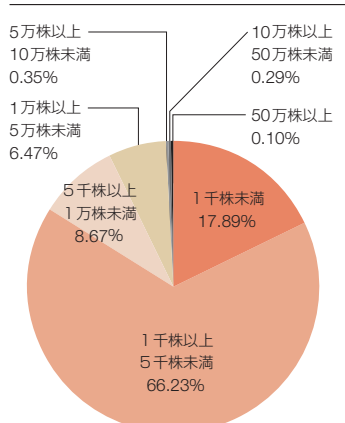
大株主(普通株式)		
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
大東通商株式会社	51,819,211	10.19
農林中央金庫	18,642,720	3.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	17,492,000	3.44
株式会社みずほコーポレート銀行	15,986,500	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,460,000	3.04
日本生命保険相互会社	13,201,855	2.60
東京海上日動火災保険株式会社	11,931,425	2.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,588,000	1.89
東洋製罐株式会社	8,803,500	1.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	8,413,000	1.65

※出資比率は、普通株式の発行済株式総数から自己株式(279,812株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布状況(普通株式)



所有数別株主数分布状況(普通株式)



### ●株主優待

当社では、株主の皆様の日頃のご愛顧におこたえするとともに、当社株式を長期に保有していただける魅力あるものにするを目的として株主優待制度を実施しております。

1 対象株主様と実施の内容	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された1千株(1単元)以上を保有していただいている普通株主の皆様を対象として、年1回実施いたします。
2 優待の内容	当社グループで取り扱っている商品、サービスの無償提供または優待割引を行います。

### ●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権: 毎年3月31日 期末配当: 毎年3月31日 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	同上
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.maruha-nichiro.co.jp/">http://www.maruha-nichiro.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

#### 【ご注意】

- 株券電子化にともない、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ●株式諸手続きのご案内

	お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
特別口座に記録された株式	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別口座から一般口座への振替請求</li> <li>住所・氏名等のご変更</li> <li>配当金の受領方法の指定(*)</li> </ul>	特別口座の 口座管理機関  三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎0120-232-711 (通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問い合わせ</li> </ul>	株主名簿 管理人  手続き書類の ご請求方法 ▶音声自動応答電話によるご請求 ☎0120-244-479 (通話料無料) ▶インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufj.jp/daikou/">http://www.tr.mufj.jp/daikou/</a>

(\*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

	お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
証券会社等の口座に記録された株式	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問い合わせ</li> </ul>	株主名簿 管理人  三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎0120-232-711 (通話料無料)
	上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。